

撮同監脚原
影督色作
者者者

卷三

芦屋映盡
山上山下島秀一氏量氏
川下島秀一氏量氏
森ひさ一氏量氏
勝氏

主要役割



だけにこの映画に熱があり眞面目さがあつた事は二つも見受けられ大抵想像がつく平凡なものだ。譯り脚は監督の如く筋を通さざるにすぎないけれど配役が好み。俳優がうまい。これに依つてこの平凡な譯りを可成り面白く見せて居る。監督の専門で俳優を殺すなかなか面白つたのは新進監督たる深川山下氏などは成功云々はねばならない。平凡な譯りでありながら興味をもつても興行価値も充分ある、感じの好い映画である。

〔拾壹月拾參日、大阪芦邊劇場封切〕

山本 緑葉一